

令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録

【日時・場所】

令和8年6月18日（木） 15：00～17：00 中央聴覚支援学校 高等部棟4F 会議室
※14：00～ 動画にて活動紹介

【出席者】

< 学校運営協議会委員 >

- ・ 中瀬 浩一（同志社大学 教授）
 - ・ 良原 恵子（大阪府臨床心理士会 副会長）
 - ・ 前田 浩（大阪ろう難聴就労支援センター 理事長・センター長）
 - ・ 那須 元樹（OSP ハートフル株式会社 代表取締役社長）
 - ・ 兼田 浩美（本校PTA会長）
- （※前田雅敏委員は欠席）

1. 開会

◇教頭より、本協議会が実施要綱に基づき公開で開催される旨、および手話通訳者の紹介が行われた。

2. 校長挨拶

- ◇4月のスタート以来、大きな事故なく計画通り教育活動が進んでいる。
- ◇本年度は委員の更新期にあたり、改めて2年間の委嘱をお願いしたい。
- ◇昨年度に引き続き、会長に中瀬委員、副会長に前田浩委員を選出した。

3. 昨年度の成果および今年度の取り組み

〈概要報告〉

- ◇高等部「**カウンセリング体験**」の成果：全員面接形式で「何でも話せる体験」を実施した。安心できる場づくりや相談先を増やすことが目的。
- ◇研究活動の進捗：「主体的・対話的な学び」の3年計画最終年度として、各部で研究テーマを設定した。本年度は教員がグループで計画案を作成する新たな試みを導入し、専門性の向上をめざす。

< 学校運営協議会委員からの意見 >

- ◇授業動画を見ると、生徒が首を動かさず無表情で、内容が伝わっているか懸念される。わかったかどうかを生徒から引き出す工夫が必要だ。
- ◇教員が一方的に講義するのではなく、誰かの発表を他の生徒が共有し、互いにわかりあうような「対話的でダイナミックな授業」をめざしてほしい。また、カウンセリングは聴覚障害の特性を理解した専門家が対応すべきである。
- ◇全員面接は、困ったときの資源（相談先）を知る「援助希求能力」を育てる体験として有効である。

4. 議事 【議題：令和8年度 学校経営計画について】

〈概要報告〉

◇教職員の不適切言動事案

昨年度末、児童への不適切な指導により教員が懲戒処分（停職1ヶ月）を受けた。保護者説明会を開催し、本年度は人権尊重と同僚性の構築を改めて誓いスタートしている。

◇教員体制の課題

正規採用率が80%に低下し、3年目以下の若手が約30%を占めている。専門性の継承が大きな課題である。

◇キャリア教育の視点

職業準備性（ソフトスキル）だけでなく、幼少期から「夢や憧れ」を育み、学習のモチベーションに繋げる指導に力を入れたい。

＜学校運営協議会委員からの意見＞

◇社会で活躍する卒業生は部活動等で「もまれた」経験を持つ者が多い。自分の思いを発信する「アウトプット」の機会を授業等で増やすべきだ。

◇夢は一直線ではなくてよい。例えば「野球選手」から「スポーツ関連の仕事」へと興味を広げていくプロセスを、大人が幼少期から拾い上げることが大切だ。

◇教員自身が、聞こえない人が実際に働いている現場を見に行き、そこで学ばれた知見を子どもたちに還元していく視点が大切。また、高等学校に進学した生徒が情報保障や友人関係で苦しむことがないように、フォローしていける体制が必要ではある。

◇若手教員の増加に対し、大学での専門教育や実習を通じた人材育成の連携を、学校単独ではなく広い視野で考える必要がある。

◇議事 令和8年度学校経営計画 について承認された

5. 事務局より連絡

◇第2回（10月29日）、第3回（2月25日）の開催予定。

◇生徒の様子をより詳しく把握するため、第3回は午前中からの開催（授業見学等）を検討する。

6. 閉会（校長より）

◇本日の議論を通じ、教員と子供の関係性、および卒業後の繋がり的重要性を再認識した。

◇日々の学校生活を充実させ、子供たちが「ここにいた意味」を感じられる学校づくりに邁進したい